

## 通訳案内士試験ガイドライン 目次

### I. 試験全体について

- (1) 目的
- (2) 試験方法
- (3) 試験委員
- (4) 合否判定
- (5) 試験免除

### II. 外国語筆記試験について

- (1) 試験方法
- (2) 合否判定

### III. 日本地理筆記試験について

- (1) 試験方法
- (2) 合否判定

### IV. 日本歴史筆記試験について

- (1) 試験方法
- (2) 合否判定

### V. 一般常識筆記試験について

- (1) 試験方法
- (2) 合否判定

### VI. 口述試験について

- (1) 試験方法
- (2) 合否判定

## 外国語筆記試験 出題構成（平成23年分）

### 1. 英語

- (1) 外国語文読解問題 40点
- (2) 外国語文和訳問題 14点
- (3) 和文外国語訳問題 16点
- (4) 外国語による説明 16点
- (5) 単語外国語訳問題 14点

### 2. 中国語

- (1) 外国語文読解問題 46点
- (2) 外国語文和訳問題 8点
- (3) 和文外国語訳問題 15点
- (4) 外国語による説明 16点
- (5) 単語外国語訳問題 15点

### 3. 韓国語

- (1) 外国語文読解問題 34点
- (2) 外国語文和訳問題 12点
- (3) 和文外国語訳問題 12点
- (4) 外国語による説明 18点
- (5) 単語外国語訳問題 24点

## 外国語筆記試験に係る論点

### ○問題構成

- ・客観式（選択式）導入の是非。導入する場合、どの部分にするか。またその割合をどうするか。
- ・「単語外国語訳問題」の扱い。例えば「文法・語彙問題」と一括りにして、言語ごとに出題者の裁量に委ねてもよいのではないか。

### ○合格基準点

- ・他の筆記試験（日本地理、日本歴史、一般常識）と同様、60点とするか、現行の70点のままでよいか。

### ○二段階方式の導入：

- ・客観式（選択式）を導入する場合、当該部分のみで合格基準点を設け、記述式の採点にたどり着く者を選別することを視野に入れるべきか。
- ・この方式を導入するにしても、一定期間、新試験の施行状況を見るべきではないか。

## 口述試験に係る論点

### ○問題構成

- ・現行ガイドラインにいう「実際のガイドの現場を想定したロールプレイング方式」の試験にするため、より実践に即したやり取りにすべきではないか。

### ○採点基準：

- ・現行の評価項目は適切か。受験生の実力を点数化（「見える化」）し、不合格となった受験生の勉学の役にも立つよう、より具体的な採点基準を定める必要はないか。

### ○聞き取り試験：

- ・口述試験とは別には行わないということではないか。